

No1 Idiom Reading Practice: 1/10

Name: _____ / Date: _____ Score: __ / 4 ⏳ 8 min

次の英文を読み、空所（ 1 ）～（ 15 ）に入る最も適切な語句を、下の語群（A）～（O）から1つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、各語句は1回のみ使用する。なお、語群の語句は、文中では動詞の時制・態・語形や、代名詞の格・数・再帰形などが文法的に適切な形に変化するものとする。

Why Small Problems Deserve Attention

People often ignore small problems because they believe such problems will disappear by themselves. In reality, however, a minor difficulty can sometimes (1) a much more serious one. For this reason, successful organizations usually try to (2) problems before they become difficult to control. They do not simply wait for someone else to solve them.

Consider a school where students have recently begun arriving late for morning classes. Teachers might first assume that laziness (3) the increase in late arrivals. However, when they carefully (4) attendance records, they may discover a different explanation. They might (5) evidence showing that changes in local bus schedules have affected many students. What seemed to be a problem of personal responsibility may actually (6) several different factors. Unless teachers examine the situation carefully, they may (7) an ineffective solution.

Once the causes have been identified, the school can (8) a plan to improve the situation. Some measures may not work immediately, but teachers should (9) trying different approaches. Students, too, may need time to (10) habits that make them late. If everyone cooperates, these efforts may (11) positive changes that no one originally expected. An experiment that seems unlikely to succeed may eventually (12) to be surprisingly effective.

This example teaches us something about problem-solving in general. Difficulties often (13) when several small factors combine.

We should therefore avoid making judgments before examining the evidence. If an idea does not work, we should not hesitate to (14) it and consider another approach. Careful investigation may require time, but in the long run it can help us (15) many difficulties that initially seem impossible to solve.

【語群】

- | | | |
|------------------|------------------|----------------|
| (A) account for | (B) bring about | (C) carry out |
| (D) come across | (E) come up with | (F) get over |
| (G) give rise to | (H) keep on | (I) look into |
| (J) look over | (K) result from | (L) take place |
| (M) turn down | (N) turn out | (O) work out |

解答

(1) (G) (2) (I) (3) (A) (4) (J) (5) (D) (6) (K) (7) (E) (8) (C) (9) (H) (10) (F) (11) (B) (12) (N) (13) (L) (14) (M) (15) (O)

解答・解説

(1) 正解 (G): give rise to 「A を引き起こす」。

小さな問題が、さらに深刻な問題を引き起こすことがある、という文脈です。

(2) 正解 (I): look into A 「A を詳しく調査する」。

問題が制御できなくなる前に、その原因や状況を調べることを表しています。

(3) 正解 (A): account for A 「A の理由を説明する」。

教師たちは、生徒の怠惰が遅刻の増加を説明すると考えた、という内容です。

(4) 正解 (J): look over A 「A に目を通す・A を調べる」。

ここでは、教師たちが出席記録を注意深く調べることを表しています。

(5) 正解 (D): come across A 「A を偶然見つける・A に偶然出会う」。

調査中に、バスの時刻表変更を示す証拠を偶然発見した、という文脈です。

(6) 正解 (K): result from A 「A から生じる・A に起因する」。

個人の責任に見えた問題が、実際には複数の要因から生じていることを表します。

(7) 正解 (E): come up with A 「A を考え出す・A を思いつく」。

状況を十分に調べなければ、効果のない解決策を考え出してしまう可能性があります。

(8) 正解 (C): carry out A 「A を実

行する」。

原因を特定したあと、学校が改善計画を実行することを表しています。

(9) 正解 (H): keep on V-ing は「V し続ける」。

すぐに成果が出なくても、教師はさまざまな方法を試し続けるべきだ、という内容です。

(10) 正解 (F): get over A 「A を克服する」。

ここでは、生徒が遅刻の原因となる長年の習慣を改めることを表しています。

(11) 正解 (B): bring about A 「A をもたらす・A を引き起こす」。

全員の協力によって、予想していなかった好ましい変化が生じる可能性を述べています。

(12) 正解 (N): turn out to be A は「結果的に A であると分かる」。

成功しそうにない試みが、最終的には驚くほど効果的であると判明する、という文です。

(13) 正解 (L): take place は「起こる」。

複数の小さな要因が重なると、困難が生じることがあると説明しています。

(14) 正解 (M): turn down A 「A を断る・A を却下する」。

考えた方法がうまくいかなければ、それを退けて別の方法を検討するという流れです。

(15) 正解 (O): work out A 「A を

解決する・Aの答えを見つける」。慎重に調査すれば、一見解決不可能な問題にも対処できることを表しています。

全訳

小さな問題に注意を払うべき理由

人は、小さな問題はいずれ自然に消えたと考えて、それを無視することがよくあります。しかし実際には、ささいな問題が、さらに深刻な問題を引き起こすことがあります。そのため、うまく運営されている組織は通常、問題が手に負えなくなる前に、その問題を詳しく調べようとします。誰かほかの人が解決してくれるのを、ただ待っているわけではありません。

最近、朝の授業に遅刻する生徒が増え始めた学校を考えてみましょう。教師たちは最初、生徒の怠惰が遅刻の増加を説明する原因だと考えるかもしれませんが、出席記録を注意深く調べると、別の理由が見つかる可能性があります。例えば、地域のバスの時刻表が変更されたために、多くの生徒が影響を受けていることを示す証拠を、偶然見つけるかもしれません。一見すると個人の責任の問題に思えたことが、実際にはいくつかの異なる要因から生じている可能性があるのです。教師たちが状況を注

意深く調べなければ、効果のない解決策を考え出してしまうかもしれません。

原因が特定されれば、学校は状況を改善するための計画を実行できます。すぐには効果が現れない対策もあるでしょうが、教師たちはさまざまな方法を試し続けるべきです。生徒たちにも、遅刻の原因となっている長年の習慣を克服するための時間が必要かもしれません。全員が協力すれば、こうした取り組みが、当初は誰も予想していなかった好ましい変化をもたらす可能性があります。成功しそうに思えない試みが、最終的には驚くほど効果的であると分かることもあります。

この例から、問題解決全般について大切なことが分かります。いくつかの小さな要因が重なると、困難が生じることがよくあります。したがって、証拠を調べる前に判断を下すことは避けるべきです。ある考えがうまくいかなければ、それを退け、別の方法を検討することをためらってはいけません。慎重な調査には時間がかかるかもしれませんが、長い目で見れば、それによって、最初は解決不可能に思える多くの困難を解決できるようになるのです。